

普及活動情勢報告（平成 30 年 1 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ミョウガ栽培における「見える化」の重要性と増収のためのポイント ～ミョウガ勉強会～



勉強会の様子

12月26日、JA土佐くろしおミョウガ部会を対象に勉強会を開催し、農家など50名が参加しました。環境測定や地下茎の堀取り調査結果等を基に湿度管理等や「見える化」の重要性、炭酸ガス施用効果等について報告し、意見交換を行ないました。

「ミストの粒径が大きく葉がぬれるが、それでも噴霧した方が良いか？」などの質問があり、ミョウガ栽培での湿度管理の重要性が理解されました。

ミョウガの栽培技術については、依然と解らないことが多いですが、今後も農業改良普及課は定期的に勉強会を開催し、栽培技術のレベルアップに取り組みます。

JA 津野山加工用ワサビ版 GAP を本格開始 ～平成 30 年産加工用ワサビ現地検討会～



現地検討会の様子

12月22日、JA津野山加工用ワサビ生産者を対象に現地検討会を開催し、農家4戸が参加しました。

農業改良普及課は、生育と温度の関係や厳寒期の温度の確保対策について説明しました。また、今作から本格的に取り組むよう進めてきたJA津野山加工用ワサビ版GAPでの、点検シートによるチェック作業を農家全員で行いました。

生産者からは、「最高・最低温度計を設置し、日々の温度に気を配ることが大事」、「GAPの各点検項目の重要性は、その逆のリスクを考えると、より分かりやすくなるのでは」などの声があり、活発な意見交換と共にGAPの大切さへの理解も深まりました。

農業改良普及課は、ほ場調査や巡回指導を通じて、高品質・安定生産とともにGAPの推進を支援していきます。

集落活動センターおちめんの営農組織設立に向けて ～先進地視察研修～



倉庫で活動内容について研修

1月18日、集落活動センターおちめん産地づくり部会の農家17名、梶原町1名が参加し、四万十町のドリームファームみつけ見付権七営農協議会を視察しました。

集落活動センターおちめん産地づくり部会では地域の農地を守るため営農組織との連携を計画しており、視察では、30年にわたる組織の歩みと作業受託体制について研修し、参加者からは「農業機械の管理はどうしているのか」等運営について質問していました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農組織越知面の組織設立に向け、体制整備を支援します。

知っておきたい税制について ～はちきん農業大学須崎地域講座の開催～



講座の様子

1月16日、はちきん農業大学を開催し、税理士を講師に招き「農業者が知っておきたい税制」について学びました。

講座では、所得税の基本、今後の税制改正の予定などについての話を聞き、参加した5名は熱心にメモをとっていました。

また「両親が年金を受給するようになるが、専従者給与はどのように考えれば良いか？」などの質問が出され、「小規模企業共済についても学びたい」など今後の講座内容を希望する声も聞かれました。

農業改良普及課は、引き続き女性農業者の活躍促進・交流に向けて、関係機関と連携して講座を開催していきます。

津野山地域に移住・就農しませんか？ ～津野山地域の産地紹介～



産地紹介の様子

1月18日、農業担い手育成センターの長期研修生7名を対象に、津野山地域の産地紹介を行いました。

講座では、JA津野山から産地の状況や複合経営の考え方を紹介し、普及課から梶原町・津野町の移住・子育て支援制度の概要について紹介しました。

研修生は資料やパンフレットに目を通しながら、津野山地域の暮らしを理解した様子でした。

農業改良普及課は、次年度についても、説明時期を早めに計画し、津野山地域の農家と一緒に産地紹介を行っていきます。